

### 第3章 耳取遺跡の価値

#### 第1節 耳取遺跡の本質的価値

平成23(2011)年から平成26(2014)年までの調査によって、耳取遺跡は縄文時代中期中葉・後期前葉・晩期後葉の3時期の集落の全体像と詳細な構造がそれぞれに明確に把握できるだけでなく、それが一つの遺跡に重なって存在するという、北陸地方では極めて希有な事例であることが判明した。特に、後期前葉の集落については総面積が16,000㎡になり、北陸地方の当該期では最大規模の拠点的な集落になると考えられる。

加えて、平成28(2016)年の調査によって、晩期集落は多くの掘立柱建物で構成された環状構造であることが確認された。この調査成果は縄文時代晩期集落研究において、非常に貴重な情報を提供するものである。

次に、本質的価値に関する4項目について記す。

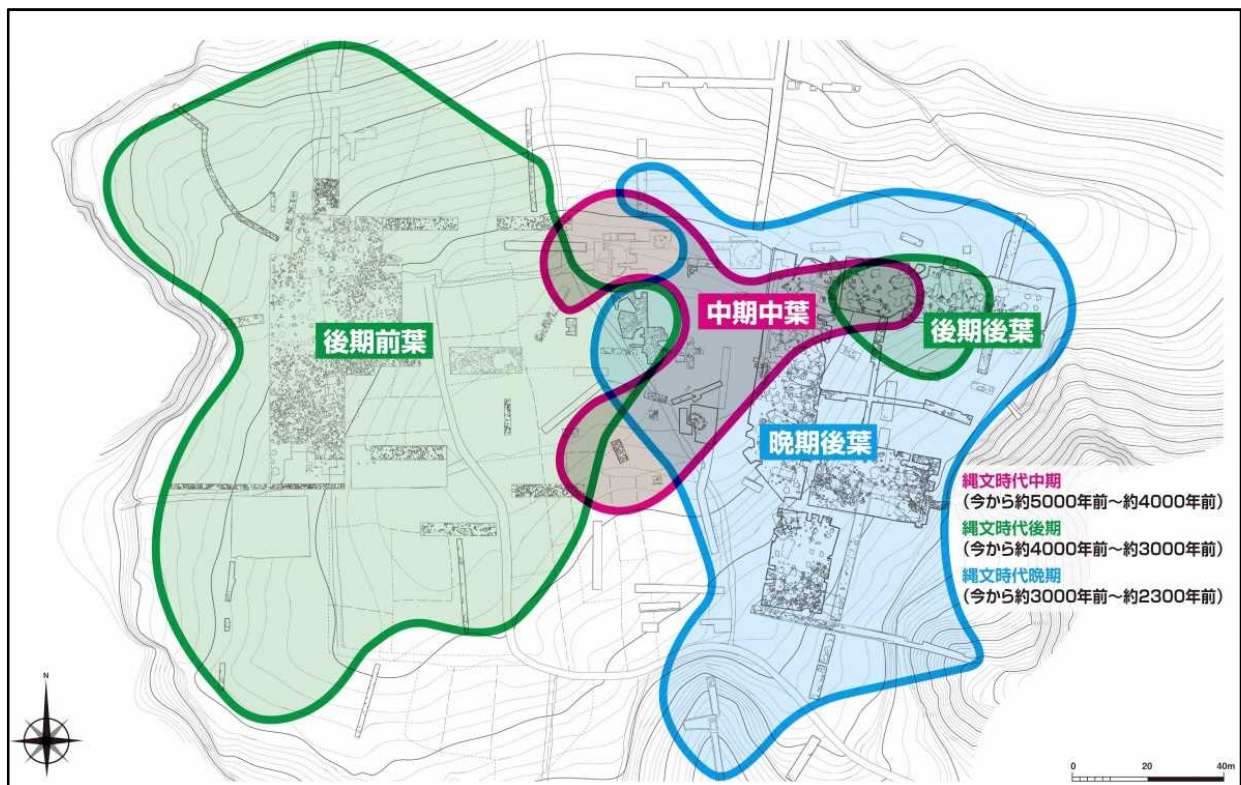


図3-1 各時期の集落分布状況

### (1) 縄文時代3時期にわたる集落遺跡

本遺跡は縄文時代草創期から晩期までの遺物が出土しており、その中でも縄文時代中期中葉から後葉、後期前葉、晩期後葉の時期にわたり活発に集落が営まれた遺跡であり、それぞれの時期で当該地域において中心的な役割を果たした遺跡である。断続的ではあるがこれほどの長期にわたって集落が営まれ、その集落の内容が確認された例は、全国的にも稀有である。

また、3時期の集落跡がそれぞれ少しずつ位置を変えて立地しており、各時期の集落の状況を個々に把握することができる。さらに、明治期から市内外に知られており学史的にも重要で、新潟県を代表する縄文遺跡であるうえに、現在までほぼ完全な姿で保存されている北陸でも希少な遺跡である。

### (2) 縄文時代中期集落の構造（竪穴建物からなる馬蹄形集落）

本遺跡における縄文時代中期集落は丘陵頂部の平坦地中央部に位置し、中葉と後葉および詳細な時期不明の竪穴建物跡が合計13棟確認された。中葉においては8棟の建物跡が検出され、うち全体プランが確認できたものが2棟とともに卵形の平面形であった。これらに伴う形で長楕円形の土器埋設石囲炉2基と長楕円形の土器敷石囲炉1基が検出された。中期後葉においては3棟の竪穴建物跡が確認され、うちプランが確認できたものが2棟で1棟が卵形、もう1棟は隅丸方形であった。これらに伴う形で複式炉と考えられる炉跡3基と地床炉あるいは石囲炉が1基検出された。上記建物跡の配置から集落の形状は南北約60m、東西約70mの南西方向に開口する馬蹄形を呈する。

また、信濃川上流域が分布の中心域である中期後葉の沖ノ原式土器は当遺跡付近が現状では分布の北限となる。

さらに、中期集落範囲内から大珠2点が出土している。これは本遺跡が信濃川右岸の拠点集落であり、かつ糸魚川地方との活発な交流があったことを物語るものであり、当時の交易ルートの解明に手がかりを与えるものである。



写真 3-1 炉跡検出状況



写真 3-2 沖ノ原式土器



写真 3-3 大珠の出土状況



写真 3-4 ヒスイ製大珠

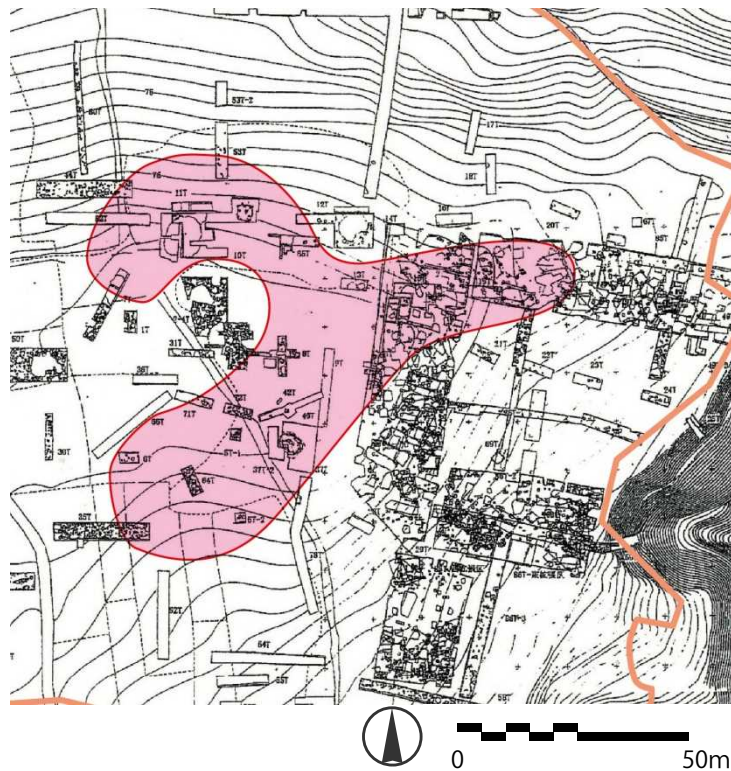


図 3-2 中期集落範囲図

(3) 縄文時代後期集落の構造（北陸最大級の規模の環状集落）

縄文時代後期集落は丘陵西側一帯から中央部にかけて広がる。集落の範囲は南北約 200m、東西約 120m、推定面積約 16,000 m<sup>2</sup>にもおよび、新潟県では最大であり、北陸においても最大級の規模である。その時期は前葉から中葉であり、ピークは後期前葉にあたる。建物跡には平面形が方形もしくは長方形の掘立柱建物と柱穴が円形に並ぶものがある。1 間×1 間、1 間×2 間を主とする方形もしくは長方形の掘立柱建物跡が 42 棟、楕円形の建物跡 24 棟が確認された。

後期前葉の集落形態は、平坦地西端付近にある推定 27m×20m の中央広場を居住域が取り囲む環状構造が想定される。建物の向きに規則性は見られないが、円形の建物が広場を囲み、方形の掘立柱建物はこれと重複、またはやや外側に確認された。さらに居住域の北端、東端と中央広場の南端付近には人骨が集中する区域があり、北側斜面には土器捨て場が確認できた。



写真 3-5 柱穴



写真 3-6 土器捨て場断面



図 3-3 後期集落範囲図

#### (4) 晩期集落の構造（掘立柱建物からなる環状集落）

縄文時代晩期の集落は図 3-4 のように南北約 80m、東西約 70m の範囲に広がり、中央に広場があり、建物がその広場を取り囲むように配置された環状集落であることが判明した。検出した建物域のほぼ中央には、長軸 30 m、短軸 20 m の不整形な楕円形を呈する中央広場があり、それを取り囲む形で掘立柱建物が環状に配置されている。

また、集落を構成する建物は掘立柱建物のみで、その形状は多様であるが合計 55 棟検出された。建物それぞれの床面積にはかなりのばらつきがあった。

出土した土器は晩期後葉が主体をなしている。

今回の調査によって、これまで調査事例が少なかった新潟県中越地方における縄文時代晩期の集落の様相の一端が明らかになるとともに、丘陵東側において今まで不明瞭であった縄文時代晩期の集落の具体的な姿が確認できたということは大きな成果であった。

また、本遺跡のように、掘立柱建物のみで構成される晩



写真 3-7 晩期後葉の土器



写真 3-8 晩期後葉の土器

期集落は全国でも類例がない。全国的に見ても晩期集落の構造把握が可能なきわめて重要な遺跡である。

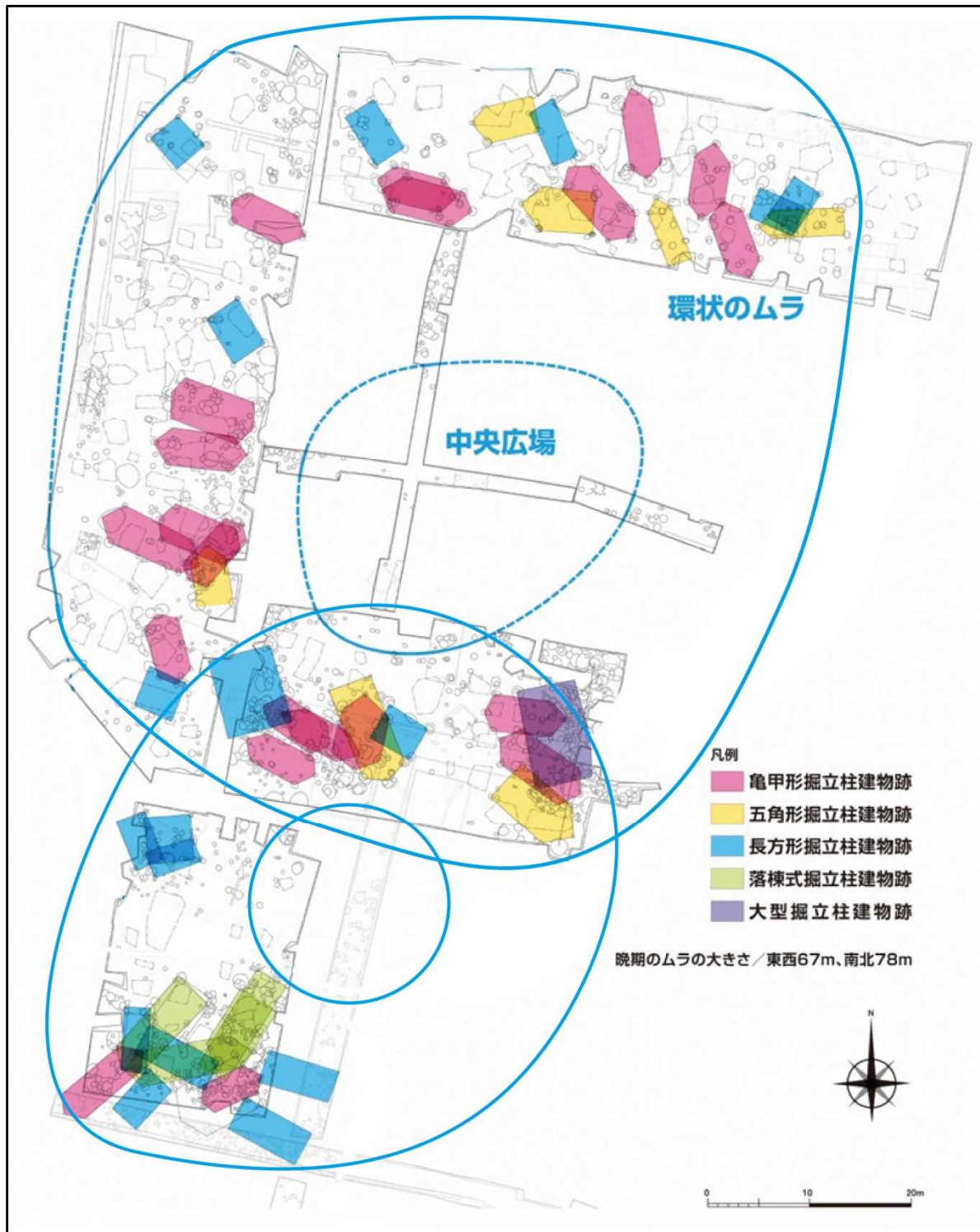


図 3-4 晩期集落建物配置図

## 第2節 耳取遺跡を構成する諸要素

史跡耳取遺跡の構成要素を特定し、それらと本質的価値との関係について以下に分類して整理する。

(1) 本質的価値を構成する諸要素：

史跡指定地内において本質的価値を有するもの

(2) 本質的価値を構成する諸要素以外の諸要素：

史跡指定地内において本質的価値を取り巻く環境を形成しているもの

(3) 指定地の周辺地域を構成する諸要素：

史跡指定地の周辺環境を形成しているもの

指定地の周辺地域には、旧石器から中世(古墳時代を除く)にいたるまでの複数の遺跡が存在している。その中でも当遺跡に近接する同時代の遺跡として耳取塚群、岩沢遺跡、鉢保坂遺跡、名木野遺跡があげられる。これらの遺跡は当遺跡の歴史的環境を形成しているものであり、周辺地域を構成する諸要素として取り扱うこととする。

したがって、これらを含む範囲を対象として構成要素を抽出する。

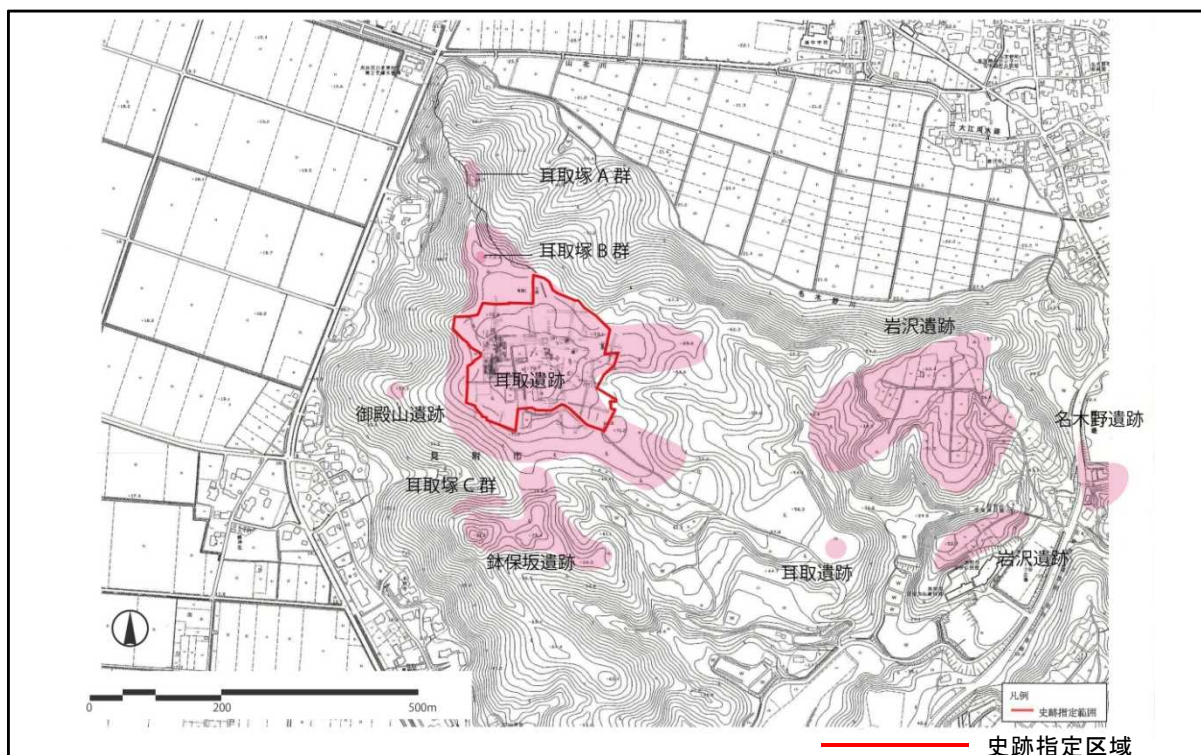




図3-5 指定地の周辺地域



上記をふまえ、以下に、耳取遺跡を構成する諸要素を示す。

表 3-1 耳取遺跡の構成要素

(1) 本質的価値を構成する諸要素 (史跡指定地内)		
史 跡	<p><b>①縄文時代中期の集落想定範囲</b></p> <p><b>【遺構】</b> 縄文時代中期中葉の集落は、丘陵の中央部に広がる。卵形等の竪穴建物跡 13 棟とこれらに伴う土器埋設石囲炉・土器敷石囲炉・地床炉も検出され、これらの配置から南北約 60 m、東西約 70mの南西部が開口する馬蹄形を呈する集落になると考えられる。</p> <p><b>【遺物】</b> 当遺跡付近が北限となる中期後葉の沖ノ原式土器、当遺跡以北において出土量が少ない中期中葉の桁倉式土器がみられる。</p>	
	<p><b>②縄文時代後期の集落想定範囲</b></p> <p><b>【遺構】</b> 縄文時代後期前葉の集落は、丘陵の中央部から西側にかけて広がる。現在まで楕円形建物が 24 棟、長方形の掘立柱建物が 42 棟検出され、これらの配置から中央部に推定 27m×20m の中央広場を有する、南北約 200m、東西約 120mの大規模な環状集落になると考えられる。 なお、この環状部の北端と東端、そして中央広場の南側からは人骨が散乱して出土することから、それぞれの場所には墓域が存在する可能性がある。北側斜面には土器捨て場も確認できた。</p>	
	<p><b>③縄文時代晩期の集落想定範囲</b></p> <p><b>【遺構】</b> 縄文時代晩期の集落は丘陵平坦部の東側、南北約 80m、東西約 70mの範囲に広がり、中央の広場を取り囲む形で建物が配置された環状集落であると想定される。集落を構成する建物は数種類の形態の掘立柱建物で、その中央に長軸約 30m、短軸約 20mの楕円形を呈する中央広場が確認されている。 さらに、その環状集落から若干の空白域をはさんで南側には建物群が密に分布する区域が確認されており、丘陵南東側の斜面部では土器捨て場が確認されている。</p>	

(2) 本質的価値を構成する要素以外の諸要素 (史跡指定地内)		
史跡	<p>①集落想定範囲外の土地</p> <p>指定地内において遺構・遺物が確認されていない範囲の土地。 耳取遺跡の土地形状として、比較的平坦な部分となっている自然地形を形成する区域。</p>	
	<p>①植物の重要種</p> <p>史跡指定地内に 1 種の貴重な植物(ヤマホロシ)が確認されている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>ヤマホロシの実</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ヤマホロシの花</p> </div> </div> 	
自然	<p>②動物の重要種</p> <p>史跡指定地及びその周辺に 21 種の希少動物が確認されている。</p>	 <p style="text-align: center;">キバシリ</p>
	<p>③スギ林</p> <p>史跡指定地内の北側および東側にスギ人工林が分布している。発達した森林のため、平野部の見通しのきかない景観となっている。</p>	
	<p>④広葉樹</p> <p>小面積のハンノキ林があり、クヌギ、ナラガシワ、イチヨウの大木がある。</p>	



(2) 本質的価値を構成する要素以外の諸要素 (史跡指定地内)		
管 理 ・ 便 益	<p>①管理用道路</p> <p>指定地の東側を通り砂利敷の幅3m程度の管理用道路がある。</p>	
そ の 他	<p>①畑地・休耕地</p> <p>平成28(2016)年11月時点で、台地上に約300㎡の畑地がみられる。当遺跡の保護・活用において取扱いの検討が必要である。また、史跡指定地西部は休耕地となっている。</p>	

(3) 指定地の周辺地域を構成する諸要素 (史跡指定地外)		
周 辺 環 境  当 遺 跡 の 本 質 的 価 値 を 補 完	<p>①耳取遺跡</p> <p>昭和62(1987)年の範囲確認調査によると、耳取遺跡は全体で推定面積が約52,000㎡となっている。史跡指定地の東の尾根沿いおよび北側に広がっているほか、史跡指定地から500mほど東に位置する。</p>	
	<p>②耳取塚</p> <p>耳取遺跡の北西斜面部に分布している塚群で、3群11基が確認されている。</p> <p>塚自体の時代は中世と推定されているが、A群1号塚の下層から縄文時代草創期の土器片が出土している。</p>	
	<p>③岩沢遺跡</p> <p>耳取遺跡の東約600mに位置し、縄文時代早期末～弥生時代後期後半の土器が出土した遺跡であり、主体は弥生時代後期後半である。</p>	

(3) 指定地の周辺地域を構成する諸要素 (史跡指定地外)		
自然	<p><b>④鉢保坂遺跡</b> 耳取遺跡の南約 200mの丘陵上に位置し、主に縄文晩期の土器が出土している。</p>	
	<p><b>⑤名木野遺跡</b> 岩沢遺跡の東約 200mに位置し、遺物の出土はなく、3基のピットが確認されている。</p>	
	<p><b>①植物の重要種</b> 史跡指定地の周辺に 7 種の貴重な植物が確認されている。</p>	 コシノカンアオイ
	<p><b>②動物の重要種</b> 史跡指定地及びその周辺に 21 種の希少動物が確認されている。 史跡指定地南部のスギ林には、オオタカの営巣木が確認されている。</p>	
	<p><b>③広葉樹林</b> コナラ林が周辺部に広く成立しており、典型的な里山の景観を形成している。ドングリ等なる木として 7 樹種が確認されている。</p>	
	<p><b>④スギ林 (一部保安林)</b> 史跡指定地を囲むようにスギ林が分布している。オオタカの営巣木があることからその保護に留意する要素である。</p>	

(3) 指定地の周辺地域を構成する諸要素 (史跡指定地外)			
管 理 ・ 便 益	⑤その他の植物	カタクリやイカリソウ、キクザキイチゲなどの春植物が群生し、早春には美しい花の景観となる。また、四季折々に咲く花や食べられる植物が見られる。	
	⑥池沼	耳取丘陵の谷や窪地には池や農業用のため池がみられる。	
	①管理用道路	北谷公民館から史跡指定地に通じる幅3m程度の管理用道路がある。管理用道路は一部舗装されているが、勾配が急であることから一般車両での侵入が困難である。	
	②里道	史跡指定地の北・西・北東から丘陵の上まで登る里道がある。	
	③北谷公民館	史跡指定地の東約300mに位置する文化施設である。研修室、アトリエ、和室など多様な部屋があり、学習、講座、団体活動等に利用されている。	
	④旧北谷中学校校舎	昭和28(1948)年に北谷村立北谷中学校の校舎として建設された木造校舎で昭和54年に閉校となった。そののち、昭和55(1980)年から見附市民俗文化資料館として利用され、現在は資料収蔵施設となっている。	

加えて、上記にあげた史跡指定範囲内及び周辺の諸要素について、一覧表にまとめたものを次に示す。

表 3-2 諸要素一覧表

分類	区分	項目名	指定範囲内		指定範囲外	
			本質的価値を構成する諸要素	本質的価値を構成する諸要素以外の諸要素	指定地の周辺地域を構成する諸要素	
人文的要素	史跡	縄文時代中期の集落想定範囲	●			
		縄文時代後期の集落想定範囲	●			
		縄文時代晩期の集落想定範囲	●			
		集落想定範囲外の土地		●		
	遺跡	史跡指定地外の耳取遺跡			●	
		耳取塚			●	
		岩沢遺跡			●	
		鉢保坂遺跡			●	
		名木野遺跡			●	
	管理・便益	管理用道路		●	●	
		里道			●	
		北谷公民館			●	
		旧北谷中学校校舎			●	
	その他	畑地・休耕地		●	●	
	自然的要素	植物	植物の重要種		●	●
			スギ林（一部保安林）		●	●
広葉樹・広葉樹林				●	●	
その他の植物				●	●	
動物		動物の重要種		●	●	
池沼		池・農業用ため池			●	